

4年 わたしの地図活用

愛媛県の特徴を読み取ろう
—統計資料を読み取りながら—

愛媛県 愛媛大学教育学部附属小学校 白石 貴士

1 はじめに

中学年期においては、具体物や地図資料、統計資料などを効果的に活用し、子どもたちの社会的な見方や考え方を養いながら県の特徴をとらえさせていくことが大切である。ただ、「特色」というだけあって、私たちの住む(都・道・府)県だけを調べるのでは、井の中の蛙であり、特色をつかませることにほいたらない。ほかと比べ、「違って」「同じように」という視点から、特色に気づくのではないかと考える。ここでは、小単元「県の広がり」の学習の流れをもとに、資料を活用しながら「特色」をとらえることについて提案したい。

「県の広がり」小単元の流れ(7時間扱い)

- : 意識の流れ
- : 資料
- : 学習問題
- : 本質的把握

地図を見て、私たちの住むまちを探そう。

地図, 統計資料

私たちの(都・道・府)県には、どのような特色があるのだろうか。

資料を使いながら、土地利用のようすや交通のようす、そして産業について調べよう。

地図, 統計資料

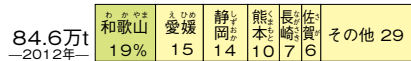
土地利用のようすや交通のようす、そして産業には、どのような特色があるのかを話し合おう。

私たちの(都・道・府)県には、特色ある地形とそれを生かしたさまざまな産業がある。また、交通網が広がり、市や町を結んだり、ほかの都道府県や外国ともつながっていたりする。

2 まずは地図から

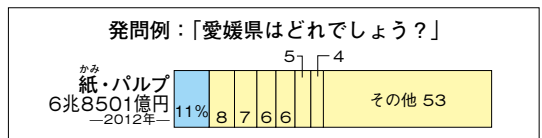
まずは地図を自由に見る時間を確保する。ただし、出発は県庁所在地「松山市」を探るところから始める。「索引の使い方」から始まり、「色や記号」で土地利用のようすや産業についての気づきがあったり、交通のようすから「方位」や「距離と縮尺」についての気づきがあったりする。このような子どもたちの気づきが主体的な学びへの鍵となる。教えたという気持ちを我慢し、子どもの「あれ?」「どうして?」という社会的事象への関心をもたせ、地図帳の使い方などを活用しながら、子どもとともに地図を読み込んでいく。そして、「わかった」「なるほど」という気持ちにひたらせることが、これから学んでいこうとする意欲を高めるためにも大切なことである。

3 統計資料との出会いは楽しく



『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.73

「さて、このグラフが表す農産物は何でしょう。」資料との出会いは、こんなクイズ形式でもおもしろい。すべてを見せるのではなく、気づいてほしい部分を隠したり、強調したりして読み取らせる時間を保障する。社会科にとって社会的事象との出会いは、とても大切なものである。社会の一部を切り取った「資料」との出会いを、子どもの好きなクイズ形式で提示するだけでも、今後の学習に取り組む姿勢が変わってくるものである。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.74 (一部改変)

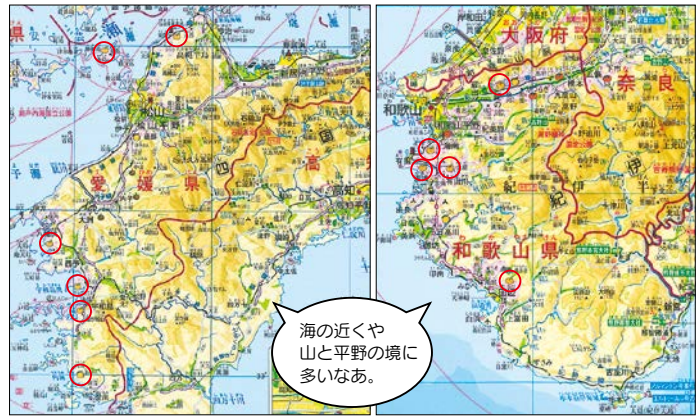
4 他教科との関連、統計資料の読み取りをていねいに

統計資料の読み取りにおいては、算数科での学びを頭の中に入れておくことが大切であろう。3年生では棒グラフ、4年生では折れ線グラフ、5年生では帯グラフや円グラフを学ぶ。したがって、この資料と出会う中学年期には、帯グラフについての学習を算数科では扱っていないことになる。学習していないから扱うべきではないという極端な話ではなく、学習していないのならば、ていねいに読み取り方を説明すればよいのである。ただ、帯グラフを扱う場合、割合についての知識がないと難しいだろう。そこは深入りせず、感覚的に読み取ることができればよいくらいの意識でよいのではないだろうか。

〈帯グラフの読み取りのポイント（例）〉

- ①何を表すグラフなのか（この部分を隠しているのなら最後に紹介することになる）。
- ②資料の合計の単位は何か。
- ③1%あたりどのくらいで、0%はどのくらいなのか。（単位量あたりの大きさは、5年生で学習するので、教師が説明する）
- ④どの都道府県でさかんなのか。

ここまでくれば、これまでの地域学習での知識や、生活経験から思い浮かぶ子も多いかもしれない。この予想も社会科では大切なことで、理由まで言えるとよい。しかし、根拠となるものを合わせて述べるのが求められる。そこで、再度地図が登場する。地図帳の記号をたよりに共通するものを見つけ、予想と照らし合わせる時間を保障したい。機械的に47都道府県の名称と位置を覚えるのではなく、私たちの住む県とのつながり（この場合だと、おもな産業でのつながり）から関連させて、無理なく学ぶことにもつながる。



「愛媛県と和歌山県に共通する産業（農作物）って？
そして、どんな場所に多い？」

『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.25, 28

5 わかったことを白地図に

この単元で大切なことは、私たちの住む県の地形や交通、産業などの特色をぶつ切りに学ぶのではなく、県のようにすを大観し、その特色を考え表現するところにある。これまで見てきた地図でわかった地形の特色や、これまで扱った統計資料からわかったおもな産業が、どのように分布しているのかなど、交通網もあわせて白地図にまとめさせ、他地域と比較・関連させた学びとしたい。そして、まとめた白地図をもとに、観光モデルコースづくりや、観光客向けのマップづくりに発展させてもいいかもしれない。



「この資料を使うとよさそうだね」「どのようにまとめる？」など、いきいきとした活動が期待できる。

「特色」をとらえることは、子どもの主体的で協働的な深い学びにつながるだけでなく、地域愛にもつなげられることを信じている。